

令和 7 年度宮城県ニホンジカ・イノシシ生息状況等調査業務報告書 概要版

1. 生息状況等調査

(1) ニホンジカ糞塊密度調査

令和6年度に調査を実施した宮城県内の35ルートでニホンジカ糞塊密度調査を実施した。糞塊密度が最も高いルートは石巻市のD43（254.89糞塊/km）であり、次いで同じく石巻市のD44（108.74糞塊/km）であった。糞塊を確認しなかったルートは7ルートあった。令和6年度と比較すると、全体的に糞塊密度は横ばいであることが分かった。

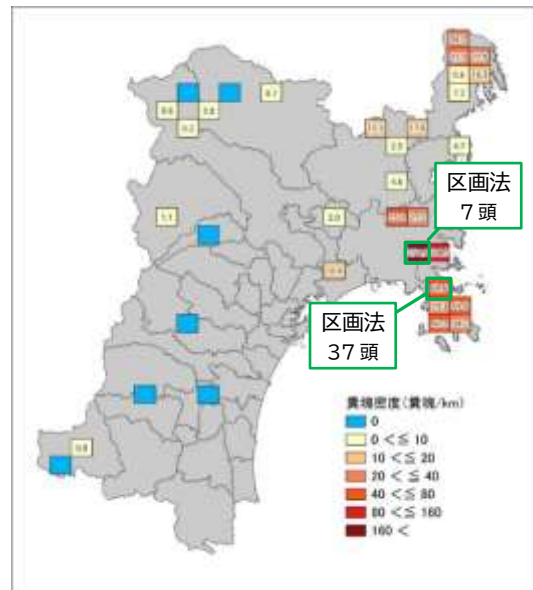


図1 糞塊密度調査、区画法調査結果

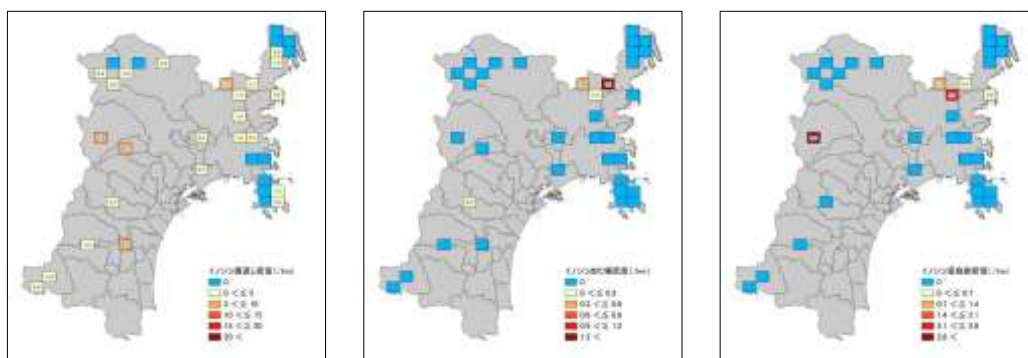
(2) ニホンジカ区画法調査

令和6年度に調査を実施した2区画において区画法調査を行った。D43の区画で7頭、D62の区画で37頭のシカを確認した。

図1に糞塊密度調査と区画法調査の調査結果を示す。

(3) イノシシ痕跡調査

ニホンジカ糞塊密度調査実施中に同じルートで確認したイノシシの痕跡を記録した。1kmあたりの痕跡数（以下、痕跡密度とする。）が最も高いのは、掘り返しが村田町のE06（8.46/km）、ぬた場は登米市のB39（1.25/km）、採食痕は色麻町のC28（14.79/km）、糞は登米市のB37（1.18/km）、足跡は色麻町のC28（4.25/km）であった。調査範囲外も含めてイノシシの痕跡を一つも確認しなかったルートは8ルートだった。



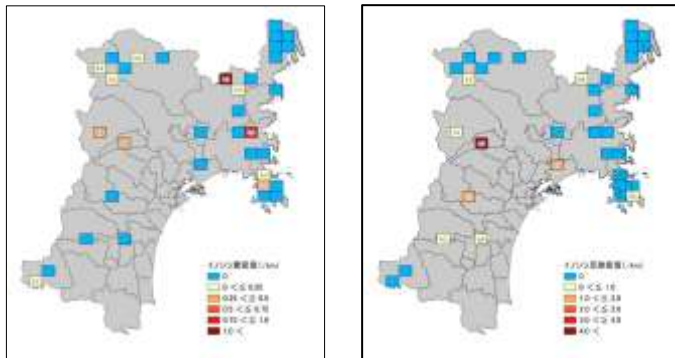


図2 イノシシ痕跡調査結果

(左上：掘り返し 中上：ぬた場 右上：採食痕 左下：糞 右下：足跡)

2. 生息頭数の推定と将来予測

(1) ニホンジカ

1) 生息頭数の推定

宮城県のニホンジカの生息個体数をメッシュ単位で階層ベイズモデルによって推定した。令和6年度の推定対象区域全域の推定個体数は合計で中央値 15,756 頭（95%信頼区間：9,523～28,449）頭となった。推定区域全域の個体数推移は、年度によって増減があるものの、平成30年度から比較すると令和6年度はわずかに減少していた。メッシュ単位の生息密度を図3、推定期間の個体数推移を図4に示す。

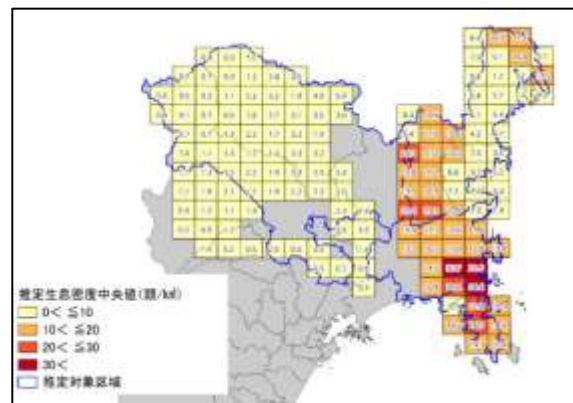


図3 糞塊密度調査、区画法調査結果

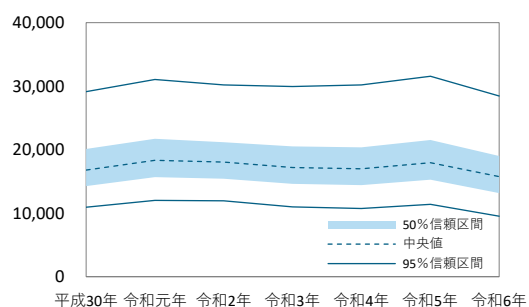


図4 ニホンジカの捕獲後個体数（合計値）

年度	個体数推定値				
	中央値	95%下限値	50%下限値	50%上限値	95%上限値
平成30年	16,802	10,953	14,270	20,099	29,145
令和元年	18,323	12,014	15,663	21,711	31,055
令和2年	18,045	11,946	15,439	21,176	30,206
令和3年	17,200	11,009	14,600	20,491	29,919
令和4年	17,004	10,723	14,395	20,340	30,183
令和5年	17,967	11,406	15,257	21,521	31,558
令和6年	15,756	9,523	13,159	19,007	28,449

2)生息頭数の将来予測

推定した値をもとに管理計画の各区域におけるシカの個体数の将来予測いくつかのパターンで行った。その結果、令和6年度の捕獲率を現状維持した場合、全体では個体数は減少し、令和12年度には中央値で15,273頭になると予測された。1.1倍の捕獲圧で捕獲した場合、拡大区域Bで2030年にほぼ半減し、捕獲率1.4倍の場合、拡大区域Aで令和12年度にほぼ半減と予測された。ただし、侵出抑制区域は1.4倍の捕獲圧でも減少せず増加し続けることが予測された。

(2) イノシシ

1)生息数の推定

県内のイノシシの個体数をメッシュ単位で階層ベイズモデルにより推定した。

令和6年度の個体数は全てのメッシュの合計で39,188頭(28,792-53,262)となった。生息密度の分布については県南地域では令和元年度から比較的高く、大きく変化していないが、県北の地域は経年変化で密度の増減が大きかった。また、自然増加率は全期間の平均値1.16(0.89-1.50)であった。メッシュ単位の生息密度を図5、推定期間の個体数推移を図6に示す。

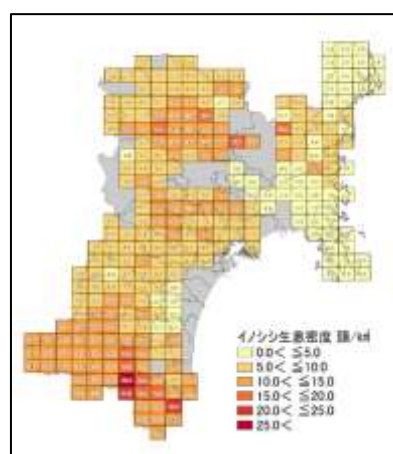
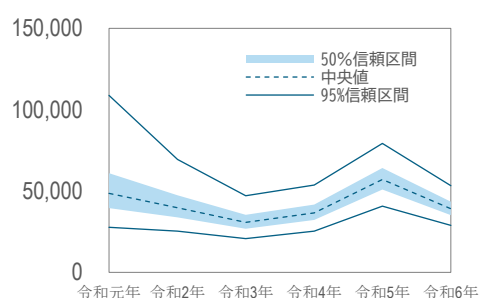


図5 イノシシの生息密度



年 度	個体数推定値				
	中央値	95%下限値	50%下限値	50%上限値	95%上限値
令和元年	48,487	27,679	39,476	60,940	108,781
令和2年	39,716	25,267	33,870	47,389	69,430
令和3年	30,734	20,747	26,817	35,364	47,101
令和4年	36,656	25,248	32,213	41,770	53,616
令和5年	57,094	40,712	50,846	64,164	79,352
令和6年	39,188	28,792	35,272	43,514	53,262

図6 イノシシの推定個体数（合計値）

2)将来予測

推定した値をもとにイノシシの個体数の将来予測いくつかのパターンで行った。令和6年度の捕獲率を現状維持した場合、個体数は増加を続け、令和11年には中央値で136,089頭になると予測された。令和6年度の2.0倍の捕獲圧で捕獲した場合、令和8年度以降減少するが、捕獲前の個体数は令和11年度に令和6年度と同じ水準の頭数となることが予測された。令和6年度の捕獲率の2.5倍の捕獲圧で捕獲した場合、捕獲前個体数は令和11年度には令和6年度の約半分となることが予測された。

3. イノシシに係る出猟カレンダーの集計

令和 6 年度に狩猟者が記入した出猟カレンダーについてイノシシに係るデータの集計を行った。銃猟の捕獲効率と目撃効率、くくりわなの捕獲効率の位置図を図 7 に示す。

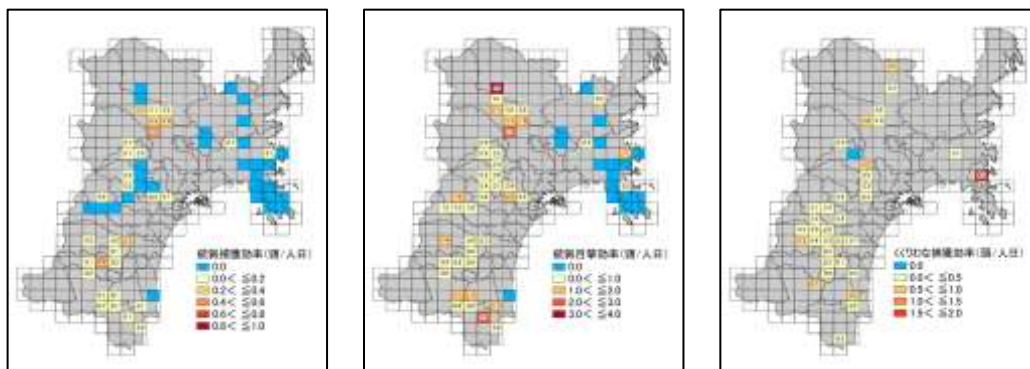


図 7 イノシシの銃猟捕獲効率、目撃効率、くくりわなの捕獲効率

4. 令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価の素案作成

ニホンジカおよびイノシシの令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実績を集計し、実施計画の目標達成度や効果、妥当性等についての評価報告書の素案を作成した。